

Frisk the Orc : Graffiti and Street Art Responses to the War Against Ukraine

“「オーク」を身体検査”
——ウクライナの戦争にみる
落書きアートと街頭芸術

表題にある「オーク」とは、トルキンの『指輪物語』(映画版は「ロード・オブ・ザ・リング」)の登場する種族のこと。現在も戦争が続くウクライナにおいて、ロシア兵はこう呼ばれたりもする——。

ウクライナの戦争が始まってからすでに3年以上が経過した。講演者のヴェリコーニャ氏は戦中の同地を訪れ、ご専門である都市や街頭の文化に目を向けながら、通り、壁、落書き、平凡な日常のなかのさまざまな表象や表現を見て回った。その試みは一冊の本となり、国内外で刊行され、反響を呼んでいる。

本講演では、ウクライナの戦争に関する導入に始まり、現地のグラフィティ(落書きアート)や街頭芸術を中心に、撮影した写真なども交えながら、現在のウクライナにみる戦時下の芸術、戦争と文化についてお話しいただく。1990年代に国家解体や紛争を経験した旧ユーゴスラヴィア地域の研究者の眼に、この戦争はどう映っているのだろうか。

日 時：2025年 **12**月 **8**日(月)
13:10 ~ 14:40

会 場：4号館 301 教室

司 会：鈴木 健太 先生

(本学 GLA 学部 准教授)

使用言語：英語

※ 共催：令和7年度科研費・基盤研究(B)
(23K21809)「旧ユーゴスラヴィア地域における
民族を超えた文化の学際的研究：紛争後30年を
経て」(代表者：鈴木 健太)／
第77回 GCI キャンパス・レクチャー・シリーズ

科研費
KAKENHI

GCI Global
Communication
Institute
KANSAI UNIVERSITY OF INTERNATIONAL STUDIES



講師：ミチャ・ヴェリコーニャ氏 (リュブリャナ大学(スロヴェニア)教授)

リュブリャナ大学社会科学部教授。専門はカルチュラル・スタディーズ。近年の中東欧やバルカンの政治イデオロギー、サブカルチャーと都市文化、反体制芸術、集団的記憶、ポスト社会主義のノスタルジアなど、幅広い領域を研究対象とし、*Post-Yugoslavia* (2014) (共編著)、*Post-Socialist Political Graffiti in the Balkans and Central Europe* (2020) など、著書・論文多数。アメリカなど海外の大学での客員教員としての経験も豊富にもつ。最近刊は、戦中のウクライナを訪れ、戦争と文化について綴った *Ukrainian Vignettes: Essays on a Culture at War* (2025)。本講演も同書に基づいている。



Mitja Velikonja



【申込制】

◀ 参加申込は
こちらから



神田外語大学 グローバル・コミュニケーション研究所

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 1-4-1 TEL/FAX: 043-273-2324 E-mail: gci@kanda.kuis.ac.jp